

人生百年時代を見据えた「地域包括ケアシステム」の論点整理

～2025年問題から2040年、2060年へ異次元高齢社会を考える～

目的

本市では、団塊の世代が75歳以上となる2025年に向け、第7次高齢者総合福祉計画を策定し、①高齢者が健康で生きがいを持って活躍する社会の実現、②地域包括ケアシステムの深化・推進～我が事・丸ごと「地域共生社会」の実現、③持続可能な介護・高齢者福祉サービスの確保の3つの基本目標を掲げ、様々な施策や取組を実施している。

2040年には団塊Jr世代が65歳以上となり高齢者数がピークを迎え、2060年には高齢化率が40%となり、「異次元高齢社会」となるが、地域包括ケアシステムの視点から、将来像を踏まえた論点整理を行い、今後の方向性の参考とすることを目的とする。

背景

人口ピラミッドの変化(1頁)

2040年を見据えた社会保障の将来見通し(2-3頁) → **社会保障の持続可能性** **生産年齢人口の急減**

論点

人口減少に対応した社会保障・働き方改革(4頁) ①多様な就労・社会参加 ②健康寿命の延伸 ③医療・福祉サービス改革

医療・介護 地域医療構想の達成に向けた一層の取組(5頁)、平成30年度診療報酬・介護報酬改定(6-7頁)

介護人材の確保 高齢者と女性の就業・活躍促進、外国人の受入(10-11頁)

2040年に向けた地域包括ケアシステム(12頁)

ニーズの変化 状態に応じた質の高い在宅医療・看取りの推進(13頁) → 人生の最終段階における医療等多様な主体による生活支援・介護予防サービスの提供(14頁)